

### 3 今月の青果物

#### いちご類

主要産地のいちご類の入荷量(東京都中央卸売市場)

産地	2023年度12月入荷量	2023年度12月シェア率
千葉	27 t	1.0 %
栃木	1,405 t	53.6 %
福岡	352 t	13.4 %
茨城	249 t	9.5 %

#### 今後の競合産地の動向は?

令和5年度の東京都中央卸売市場の年間入荷量シェア上位は、1位栃木県(53.6%)、2位福岡県(13.4%)、3位茨城県(9.5%)です。千葉県は全体の1%となっています。

10月上旬から栃木県産「とちあいか」「とちおとめ」が入荷し、順次茨城県、静岡県、更に福岡県、佐賀県の入荷が続きます。いちごは通年入荷があり、主産県の入荷がない夏場は北海道や長野県、東北産の他、アメリカ・オランダ産が入荷しています。

いちご類は、出始めである10月上旬に高値をつけてから12月上旬にかけて単価は下がっていき、クリスマス需要に向けて上がっていきます。クリスマスが終わると単価は下がり、1月中旬には落ち着く傾向にあります。

各産地オリジナルの品種を栽培しており、福岡県「あまおう」、栃木県「とちあいか」に加え、他にも茨城県「いばらキッス」、静岡県「きらび香」、佐賀県「いちごさん」、長崎県「ゆめのか」、熊本県「ゆうべに」、埼玉県「あまりん」などが入荷します。

栃木県の「とちあいか」は、JA全農とちぎによると令和7年産の見込みで作付割合が80%を超えたとのことです。収量は「とちおとめ」の1.3倍と言われますが、着色が従来の「とちおとめ」より早い特徴があるため、単純に品種を置き換えた場合に労力補完の必要が出てくるとの見方もあります。

本年の作柄は、産地で夏の高温の影響による花芽分荷の遅れ・定植遅れ等が発生していましたが、その後の天候で生育が前進した産地もあるとのこと。入荷量、価格共に前年並の見込みです。

12月入荷予測	2,730t(前年比104.1%、平年比111.7%)		
12月価格予測	2,450円(前年比100.5%、平年比109.7%)		
12月市況予測	(上旬) 保合 ⇒	(中旬) 強保合 ↗	(下旬) 強保合 ↗

